

りっぷる

エスコープ大阪機関紙

第250号

11

23. .20

# Ripple

C o n t e n t s

表紙

～エスコープまつり2023報告～  
いっしょに考え、進んでいこう

P2

・生産者、組合員、職員の交流会を開催

P3

・活動報告 福祉コミュニティ/「ワタシのミライ」参加報告/福祉コミュニティ  
・「おおぜいの私がつくる」エスコープ大阪

P4

・次世代生産者紹介  
「(農)上和田有機米生産組合」  
・理事会報告  
・おたよりネット 編集後記

～エスコープまつり2023報告～

# いっしょに考え、 進んでいこう



2023年10月22日(日)、堺市産業振興センター(堺市北区)のイベントホールで、4年ぶりに「エスコープまつり2023 ～生産者とつながろう、共にひろげよう～」を開催しました。北は山形県から、南は沖縄県まで全国33団体の生産者と、ベテラン組合員や小さなお子さん連れの組合員など570名ほどの人が集まりました。試食を楽しんだり、生産者との話を楽しんだり、会場内にマイクの音声が届かないほど、とても活気のある、にぎやかなまつりとなりました。

書き手:吉田 正美(エスコープまつり2023実行委員長)

## 4年ぶりの 開催

今年の「エスコープまつり」は、生産者と直接会って話をするのを大切に企画しました。これまで私たちは生産者と向き合い、一緒に運動をすすめてきましたが、コロナ禍によりこの4年ほどはオンラインによる交流会が中心となり、産地を訪問したり、生産者と直接会って話をしたりすることができませんでした。また、この4年間に組合員も、生産者も少しずつ世代が移り変わりました。今、新たなつながりを築いていくためには対話が必要です。

今回は、コロナ禍からの4年間に加入した組合員を対象に、各地域委員会から来場の呼びかけをしました。そして、生協の組合員の醍醐味を感じてもらおうと、生産者から直接話を聞くミッションをしてみました。

参加した組合員からは、「生産者から話を聞き、消費者として応援できることはしたいと思いました」「普段何気なく食べていましたが、たくさん手間と時間をかけて丁寧に作っていることがわかり、お話を聞けてよかったです」などの感想が寄せられました。ニュースや新聞にはもちろん



載らない、生協のカタログにもあまり載らないような生産者の生の声や現場の裏側なども知ることができたようです。

## 各地で 起こっていること

この間、コロナ禍で落ち込んだ景気がまだ回復しきれていない中、ウクライナにおけるロシア軍侵攻やイスラエル・パレスチナ武装勢力間の衝突などの影響を受け、生産の現場は大変な状況になっていきます。それに輪をかけて、特に今年の夏は猛暑が続ぎ、気候危機の深刻化によりこれまで以上に作物の収量が不安定となっています。

まつりに来てくれたお米の生産者からは「今年は白濁した米が多く1等米が少ない」、鰹節加工の生産者からは「海水温が上昇し、原料となる魚の収量が少なくて生産できない、生産するには高い原料を仕入れないといけないから価格を上げないといけない」といった声も聞かれました。

## 私たちだから できる

私たち組合員と生産者との関係は、消費材を通して、きちんと対話ができ、お互いのことを思いやり、課題を一緒に解決していくことができる関係です。このような困難な状況にも共に立ち向かい、次世代に安心して過ごせる暮らしをつないでいけるはずです。今回のまつりで、改めて生産者とは同じ運動をすすめる同志なのだと感じました。もっと私たち組合員も生産の現場に関わっていく、一緒に前に進みたいと思います。



このままでは、生産者の暮らしが成り立たなくなってしまうのではないかと、そして、私たちが求めるものが手に入らなくなってしまうのではないかと不安になります。



# 生産者、組合員、職員の 交流会を開催

## 泉州地域

参加生産者●竜王町稲作経営者研究会、(株)ウイナークラブ、  
(株)おびなた、三重県漁業協同組合連合会、久美浜JoyFruit、酒井産業(株)

「ラーメンにも取り組んでいるが、食感の良い麺を開発したい」(おびなた) 「『竜おうみ米』だけでなく、「豆伍心」の豆腐原料の大豆も栽培している。おからも有効活用したい」(竜おうみ米) 「飼料も含め原料費高騰の中、価格を抑える工夫をしている」(ウイナークラブ) 「加工したものも含めて週2、3回は食卓に魚が上るようにしたい」(三重県漁連) 「B品(規格外)作物に対する考え方など、生産者と消費者の認識の違いをできるだけ減らしたい」(JoyFruit) 「小学校の敷地内に木を植えるなど、木を身近に感じる取り組みをしたい」(酒井産業)



## 南河内地域

参加生産者●新生酪農(株)、(株)青い海、豊共園、中井製茶

「酪農を取り巻く環境は現在非常に厳しいが、1本でも多く牛乳を飲む人を増やしたい」(新生酪農) 「塩作りは平釜でしているが、二酸化炭素排出などの問題があり、環境に配慮したやり方を模索していく」(青い海) 「栽培するみかんなどの構成を変えながら、気候の変化や病害虫の対策を考えていく」(豊共園) 「お茶の利用が減っている。『そのまま緑茶』を開発した時のように、組合員と一緒に新しい消費材を作りたい」(中井製茶)



## 泉北ニュータウン地域

参加生産者●みえぎよれん販売(株)、米澤製油(株)、(有)王隠堂農園、  
(農)上和田有機米生産組合、(株)生活クラブ関西・ミート

「高い水温でも育つのりを研究中。米澤製油さんとコラボして韓国風のりを作りたい」(みえぎよれん販売) 「原料のなたねは30年前から使っているが、これから新しい品種を作っていきたい」(米澤製油) 「『雪若丸』のように暑さに強い米など、品種を多く持つてどのようなことにも対応できるようにしたい」(上和田有機米) 「産地の人口減少が課題。作物を作るだけでなく、柿入りのカレーの販売やイベントでの交流を通じて、食べる人が産地に足を運んでくれるような取り組みをしたい」(王隠堂農園) 「飼料価格高騰に加え、気温が高く牛がエサを食べなくなる問題もあり、太らせて飼育する期間を短くする対策も検討している」(関西・ミート)



## 堺市街地地域

参加生産者●京都府漁業協同組合、  
針江げんき米栽培グループ、(有)大矢商店、  
タイヘイ(株)、エスケー石鯨(株)

「水揚げが不安定。安定した供給実現に向けて消費材の開発にも力を入れていきたい」(京都府漁連) 「これまでの固定概念を取り払い、米の新品種を5～10年かけて開発することを検討中」(針江げんき米) 「組合員の継続利用で在来種のこんにゃく芋で作れる。今日はタイヘイの調味料でこんにゃくを調理したが、生産者コラボで消費材全体を盛り上げたい」(大矢商店) 「焼き肉のタレやドレッシングなど国産原料100%に変更しているが、原材料の確保が困難。規格量の調整などで対応している」(タイヘイ) 「昨年からはリサイクル原料を使い始めている。組合員の利用によりよい品質のせっけんが実現する。せっけんの利用を通じて社会や環境を良くしたい」(エスケー石鯨)



## 大阪市南・中河内地域

参加生産者●(有)山彦鯉節、(有)小島米菓、(株)産直島原、  
(株)オルター・トレード・ジャパン、コーヒー焙煎ワーカーズ 珈琲工房まめ福

「原料費高騰と水揚げ減が課題。値上げをせず、量もそのまま何とかやっていきたいとは思っている」(山彦鯉節) 「来年はカレーせんべいを消費材にしたい」(小島米菓) 「今年は何とかが順調に育っているが、作物は天候・気候に左右される。玉ねぎは8種類植えて気候対策を模索中」(産直南島原) 「天候不順でバナナの被害増大。円安で輸入品は不利だがエコシュリンプやパレスチナのオリーブオイルの利用を拡大したい」(ATJ) 「ラオスコーヒーを消費材にしたい」(まめ福)



## 河内長野・大阪狭山地域

参加生産者●こめや食品(株)、(株)丸本、丸菱製麺、コーミ(株)、  
兵庫県漁業協同組合連合会、月島食品工業(株)

「核家族化など現代のライフスタイルに合った容量、価格を検討中。フードロスへの対策にも全力で取り組む」(こめや食品) 「鶏肉の部位バランスを考えて消費材開発をしたい。鶏ミンチを使ったかまぼこなども生産者コラボで検討してみる」(丸本) 「米粉を使った麺やパスタなど消費材開発に挑戦したい」(丸菱製麺) 「原料のトマトを農家だけに頼らず自社でも作っている。トマトだけでなく、産地を育てる視点を持って取り組む。トマトまつりを全国で開催したい」(コーミ) 「兵庫の魚を使っている。油で揚げる加工品などの開発もやっていきたい」(兵庫県漁連) 「トランス脂肪酸を低減したマーガリンを組合員と開発した。多くの人に好かれる消費材を目指す」(月島食品)





大阪市南・中河内地域委員会  
**福祉コミュニティ**  
 10月3日(火)  
 住吉区民センター  
 (大阪市住吉区)

大阪市南・中河内地域委員  
 杉之原 かおり



**地域の居場所をめざして**

地域委員会で地域の居場所づくりを考えるきつかけになったのは、ひとりの組合員の声でした。

「自分が住んでいる地域には、大きなスーパーがひとつあるものの、駅から自宅の間にもちよつとした買い物ができる店がない。区役所や区のイベントを開催する施設も区の南部に片寄っていて、近くに徒歩や自転車で気軽に集まれる公民館などもない。戸建てが多い地域で、日中自宅にいる人が少ないせいもあるのか、組合員同士のつながりもなにか等しい」その声を基に、「地域に貢献できて子育て世代や高齢者が気軽に集まれる場所を作ろう」と福祉コミュニティで2年前から話し合いを始めました。

区がおこなった住民アンケートでは、「地域の行事や近所づきあいは関心がない・なくてもいい」という意見が多かったそうです。人は他者

との交流がなくても生きていけるのかもしれないが、多世代のいろいろな立場の人が出会いつながら、心身共により豊かに暮らせるのではないのでしょうか。

実現に向けての課題は活動のメンバー集めと場所探し。今のところ居場所の開設にはほど遠い状況です。が、今までは生協とつながりのあるコミュニティカフェを見学したり、団地内の空き室で食事を提供し住民の居場所を運営している方を招いて学習会をおこない、町内会とのパイプ役となる区の社会福祉協議会とも話し合い、今後連携してもらえることになりました。またメンバーの一人が「子育てサポーター」になったので「子育てひろば」も視野に入れつつ、少しずつ前進はしていきます。

まずは協力していただける民間企業の一部をお借りするなどして、月1回・週1回などできる範囲のことを着実に実行して内容を充実させて、組合員や地域住民が集える居場所(コミュニティスペース)を作っていきたいと思っています。

ワタシのミライ / Fridays For Future Tokyo / さよなら原発1000万人アクション主催  
**「ワタシのミライ」**  
**参加報告**  
 9月18日(月)  
 代々木公園(東京都渋谷区)  
 環境担当理事 岡澤 久子



**再生可能エネルギーへの転換を**

わっている高校生の活動報告や武蔵野市の女性市会議員の報告に、「差別は思いやりだけでは解決しない」「バッシングされるのは活動が知られているからだ」と受けとめる」と活動の大変さが伝わってきましたが、それでもやり続ける力強さを感じました。

最後のテーマ「脱原発 気候変動運動のこれから」では、小出裕章さん(元京都大学原子力実験所助教)が「福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出について、福島に長く置かれていたことで微生物が入り、まさしく汚染水が流されてしまった。再生可能エネルギーに転換していく市民が増えれば、原発をすすめていこうとする政府にも原発はいらないとわかるはずだ」と話されていました。

当日は気温33℃、8000人が集まる中、代々木公園野外ステージでイベントがおこなわれ、メインステージのテーマトークを聞きました。

「テーマ1 原発問題・気候危機とどう向き合うか」では不耕起栽培をしている若い夫婦や、太陽光パネルの下でブルーベリー観光農園を営んでいる人、気候変動で雪が少なくて困っている長野県白馬村で活動している人の話がありました。

「テーマ2 市民が声をあげるといこと」ではLGBTや難民問題にかか

**「おしゃべりサロンたんび」を始めます**

した。

南河内地域委員会  
**福祉コミュニティ**  
 9月25日(月)  
 丹比(たんび)コミュニティセンター(丹治はやプラザ)  
 (羽曳野市)

南河内地域理事 山田 恵子



昨年より、南河内地域の「福祉コミュニティ」では、居場所づくりについて話し合いや情報交換、施設見学などをおこなってきました。羽曳野市立

いくことに決め、地名から「おしゃべりサロンたんび」という名称を決定しま

丹比コミュニティセンター「丹治はやプラザ」に集まって情報交換を重ねるうちに、参加メンバーから「ここのミーティングが、私たちの居場所になっていくよ」という声。そこで、「丹治はやプラザ」を拠点とする居場所づくりをすすめて

味のある方も、ぜひお越しくださいね。来年1月以降のテーマはまだ決めていませんが、「スマホの使い方や若い人に教わりたい」「防災について知りたい」などの意見が出ています。組合員だけでなく、先々には地域住民の方にもお知らせをし、多世代の方が気軽に集える居場所になるよう、地域パートナーの星川さん、北村さん、地域委員の原井さんを中心に地域の組合員や住民の皆さんと共にすすめていきます。

**「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪**

**vol.15 『「地域委員会」って何?』**

生活協同組合であるエスコープ大阪の組織運営について、隔月で連載します。

**●地域委員会ってどういう組織**

前回、「理事会」について説明しましたが、今回はその理事会を構成する理事の選出母体である「地域委員会」について説明します。

エスコープ大阪には現在「泉北ニュータウン地域」「河内長野・大阪狭山地域」「泉州地域」「堺市街地地域」「南河内地域」「大阪市南・中河内地域」の6つの地域委員会があります。地域委員会は組合員1,000人以上とし、組合員1,000人に一人の割合で地域理事を推薦する母体となっています。エスコープ大阪の活動組織の基礎単位が地域委員会です。過去には地域委員会のもとに地区委員会があり地区の代表が地域委員会を構成していましたが、理事選出が困難になったこともあり今は組合員が2,000名から3,000名在籍する6つの地域にま

とめました。活動エリアが広がったこともあり、再度地域内に活動地区を設けようと考えています。地域委員会は地域理事、地域委員、地域パートナーで構成し組合員に最も身近な生協の機関として、生協課題や地域の課題解決に向け組合員の皆さんに直接呼びかけとともに活動をしていく組織です。地域委員やパートナーは消費、環境、福祉、組織、広報を担当し学習会や生産者交流会などを通じエスコープ大阪の政策を進めています。また地域委員会では組合員意見を理事会に反映させる取り組みとして、地域活動の年度報告や年度計画を地域組合員に伝えて確認する場を設けるようにしています。

**●どんな活動をしているの**

今年、消費はりんごやみかんの産地を訪問し作柄を組合員に伝えるとともに「よやく・る」での消費の呼びかけ



みんなで協力して活動しています。

や、料理講習会で利用方法を伝える活動をしました。環境では、せっけん利用を進める取り組みとしての「赤ちゃんせっけんプレゼント」や「Rびんの利用キャンペーン」、「遺伝子組み換え食品表示の調査活動」の呼びかけをしました。福祉は「子育てひろば」の開催と地域拠点づくりに向けたコミュニティ活動を進めています。地域委員や、パートナーになれば企画する側として生産者との距離も近くなり、たくさんの知らなかったことを知る機会になりますよ。





第5回  
理事会報告 <10月4日>

【8月度決算報告】

- 供給高 1億6,485万円(前年同月比92.8%)  
\*配達1日少ない
- 組合員数 18,702名(前月比△39名)
- 一人当たりの出資金 91,196円

【9月の放射能検査結果】

9月は連合消費材613検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【協議事項】

- ①2023年度上期活動のまとめ
- ②各地域の下期の担い手づくり
- ③『よやく りんご』取り組みまとめ
- ④「立川有機米研究会」との消費地交流会について
- ⑤子育てサポーター養成講座
- ⑥「上和田米」の価格改定
- ⑦ふすま・障子の価格改定
- ⑧大阪府の最低賃金の改定による「W.Co WITH」の業務委託料の見直しについて
- ⑨「ピース八田西」の調理員の採用について

【報告承認事項】

- ①「エコロ専門委員会」メンバーの決定について
- ②南河内地域理事について

## おたよりネット

「rippる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

### 248号4面

#### 「親世代から引き継いだ信念」を読んで

毎年「安全でおいしい」の認識だけでいただいていたが、改めて世代継続の大変さや実際の作業が重労働であることを知りました。今年届くみかんは「いつもお疲れさまです。ありがとうございます」の気持ちで味わって、いただきます。

紙面モニター Hさん

以前、スーパーで買ったみかんに白い粉のような物がついていました。「何だろう?」と思っていましたが、カビがつかないように出荷前に防腐剤をかけることを後に知りました。食べたくないと思いました。農協に頼らず、信念を通されたみかん農家を、私たちが食べて、援農活動をして守っていく必要を感じました。もう少し若ければ援農で応援したいです。

紙面モニター Mさん

#### 編集後記

今年の夏の記録的な猛暑は、各地の農業の現場にさまざまな被害を及ぼしています。先日「エスコープまつり2023」の際、「今年は一等米が少ない」、「海水の温度が高くなったのでかつお節の原料の鰹が獲れない」、「カメムシの大量発生による被害で、みかんがどんどん落果している」と生産者が話されていました。

このままお金を出しても食べたいものが食べられない時代になってしまうのでしょうか。今、私たち一人ひとりがどうしたらよいかを考え、行動に移すべき時です。(Y)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/



## 次世代生産者紹介

### いっしょに創る未来

山形県東置賜郡高畠町

## (農)上和田有機米生産組合

青年部の皆さん(青野 正幸さん、後藤 輝彦さん、遠藤 優一さん、皆川 直之さん)



青年部の皆さん(左から 遠藤さん、後藤さん、青野さん、皆川さん)

私たちは、以前から生産者と組合員が直接顔を合わせて議論し、一緒に消費材を作り、運動をすすめてきましたが、生協設立から50年以上経ち、世代変わりしている生産者も増えてきました。そこで、このコーナーでは次世代の生産者や「近畿親生会」の生産者に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

## 楽しくて 魅力的な農業を

「(農)上和田有機米生産組合」は、37年前に発足し、先進的に有機農業に取り組んできました。独自の肥料の設計、低温乾燥などを実践し、おいしくて安心な米づくりをしています。組合には青年部があり、メンバーは現在12名です。ほとんどが2代目で、親世代と一緒に農業をしています。

皆、他の職業を経験してから就農しました。35歳まで会社員をしていました。農業は自分で考えて計画を立て、自分の思うことをするのが会社員の時と違っておもしろいと思います。(青野)

工場勤めをしていましたが、父親が亡くなった時に後を継ぎました。収入が安定

しないからと母は反対しましたが、代々の土地を守っていきたく思いました。工場勤めの時は残業が多く、家族と過ごす時間があまり無かったので、勤めを辞めて家族は喜んでいました。娘たちにはやりたいことをやってほしい。私の代で農業は終わってもいいと思っています。(後藤)

高校を卒業した頃は、就農したら地元から外に出ていけないと思いい、外の世界を知っておこうと県外に就職しましたが、祖父母が農業をできなくなった時に継ぎました。息子たちも継いでくれたらいいと思っています。(遠藤)

農業学校を卒業して企業に就職しましたが、東日本大震災後に就農しました。その頃は同世代がいなくて、30代になった頃になりました。娘たちが就農し始め、仲間ができました。娘たちが30歳になったころ、選択肢のひとつとして選んでもらえるように、私が楽しく笑いながら、農業が魅力的なものだと伝えていきたいです。(皆川)

次世代へどうつなぐか、自分たちでどうやって地区を守っていくかが今の課題で

す。上和田でも、年々農業をする人が減ってきています。農機具は15〜20年で買い替えないといけないのですが、高額のため、高齢者はその時に離農することが多いです。離農する人から「作ってほしい」とか「田んぼを買ってほしい」と言われることが多く、1軒当たりの田んぼの面積がどんどん増えています。農地が荒れないように、そばを栽培しているところも増えました。田植え後や稲刈りが始まる前など節目の時には組合員の家を集まり、飲み会(勉強会)をします。そこで、言いたいことを言って、団結力を高め、問題解決をすすめています。

青年部で、上和田に行ってみたく思ってもらえるような新しいリーフレットを作りました。ぜひ、田んぼに来て、草刈りや杭かけなどいろいろと農業体験をしてほしいです。他にも上和田のお米が届く過程のことを知ってもらったり、何か新しいことができたらと考えています。これまで30年以上続いている交流をさらに深めたいと思います。

キトリ

## Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き  
250号(2023.11.20)

(ペンネームOK)

●地域名

●組合員コード

●お名前

キトリ